

ディーラーの独り言（2018年1月26日）

◆本日の予想レンジ

ドル円 109.00～110.10

注目された ECB 理事会では、予想通り政策金利は据え置きとなりガイダンスの変更もなく終わった。ドラギ総裁の会見では、良好な欧州経済の成長ペースを背景に、景気に対して前向きな発言をしたほか、オプションの 1.25ドルのトリガーの影響もあり、ユーロドルは 2014 年 12 月以来の 1.2538ドルまで上昇した。また、ここ最近のユーロ高に関しては明確なコメントは控え、「ユーロのボラティリティ、不確実性生む」に留めた格好だが、前日のムニューシン米財務長官のドル安容認発言を牽制、不快感を示したとの見方も。さすがに直近のマーケットのボラティリティが高まっている中で油を注ぐことはしなかった。ただ、明らかに 1.25ドル台に急上昇しているユーロ高に関しては、懸念したと思われる。そうした意味では、今後ユーロ高に関する発言が要所要所で発せられる可能性があり、要注意だろう。一方、ドル円は、ニューヨーク時間序盤こそ前日のムニューシン財務長官のドル安容認発言に端を発したドル安の流れを止められず、ダボス会議での当局者からコメントに神経質な状況から、108 円台で弱含む動きが続いた。NY市場終盤にかけて一時 108 円 50 銭まで下落したが、トランプ米大統領から強いドルを望むといった発言や、条件次第では TPP 復帰をにおわせる発言が契機となり、ショートカバーから 109 円 70 銭まで急反発した。まさに予想外の発言となり、安倍政権、黒田総裁が円高進行による株安への影響を懸念する中、援護射撃となったようだ。これをきっかけに今回のドル安の流れに一旦歯止めがかかるのではないだろうか。昨日は仲値に向けてショートにしたポジションを 108 円 60 銭台で利食い、連敗を脱出することが出来た。今晚もダボス会議でのトランプ大統領の演説を残しているため警戒感はあるものの、昨晩の発言からその警戒感も緩和されたかもしれない。本日は東京時間でも急速に進んだドル安からの反発を期待し、109 円 30 銭割れで買い、110 円超えでの売りを見込む。日経平均も 2 日続落しているだけに、反発も期待したい。さらにユーロも上昇一服からポジション調整によるユーロ売りに転じるかも注目となりそう

だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。